

【2025年卒 就職活動TOPIC】

社会人としての自信や覚悟を持って社会への第一歩を踏み出すために

仕事の社会的意義や価値、入社後に身につけるべきスキルや能力、仕事に対するモチベーションなど、
就職先企業とキャリアに関する対話ができなかった学生は、社会人としての自信や覚悟があると回答

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）のより良い就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

企業には、学生の今後のキャリアに関するコミュニケーションの機会を積極的に設けていただくことを期待



所長 栗田 貴祥

今回は、2025年卒学生が社会人としての自信や覚悟を持って社会への第一歩を踏み出すために就職活動で重要なポイントについてレポートします。就職を志望し、就職活動を経験した学生に6月12日時点での卒業後の進路確定状況を聞いたところ、民間企業への就職が確定しているのは68.1%でした。「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」を聞くと、「自信や覚悟がある」と回答した学生は65.0%、「自信や覚悟がない」と回答した学生は22.9%でした。また、就職先企業と詳しく話し合えたかどうか別に見ると、話し合いの内容に関わらず「詳しく話し合えた」学生の7割超が「自信や覚悟がある」と回答した一方で、「詳しく話し合えていない」学生は4割程度でした。早期から就職内定率は高い水準で推移しており、新卒採用市場は学生優位な状況にあると言えます。その中で、卒業後社会人として働くことに自信や覚悟を持つためには、企業とのキャリアに関する対話が重要になってくると考えます。企業の皆さまには、学生の入社後の活躍を見据え、仕事の社会的意義や価値、学生が入社後に身につけるべきスキルや能力、仕事に対するモチベーションを生み出す要因などについて詳しく話し合うといった、今後のキャリアに関するコミュニケーションの機会を積極的に設けていただくことを期待しています。

卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか

（就職先での仕事にどんな社会的意義や価値があるのかについて、詳しく話し合えたかどうか別）

大学生_就職活動経験者かつ民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

	(%)		
	卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある※1	どちらでもない	卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がない※2
就職先での仕事にどんな社会的意義や価値があるのかについて、詳しく話し合えた※3	73.0	9.7	17.3
就職先での仕事にどんな社会的意義や価値があるのかについて、詳しく話し合えていない※4	45.4	8.8	45.8

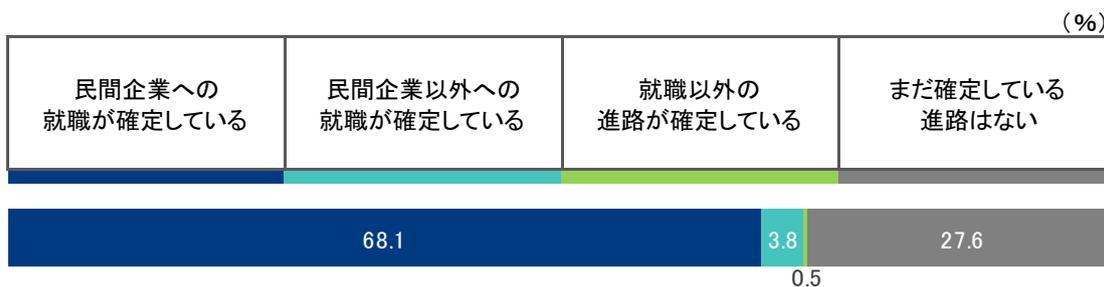
※詳細は4ページをご参照ください

就職志望者かつ就職活動経験者のうち、民間企業への就職が確定しているのは68.1%

- 就職を志望し、就職活動を経験した学生に6月12日時点での卒業後の進路確定状況を聞いたところ、民間企業への就職が確定しているのは68.1%だった。

6月12日時点の卒業後の進路確定状況

大学生_就職活動経験者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



※民間企業以外への就職とは、公務員、教員、医師・歯科医師・看護師、その他の組織・団体を指す

※就職以外の進路とは、起業、進学（国内の大学院、専門学校など）、留学、留年、その他の進路を指す

※今回の集計では、「卒業後の進路確定状況」を「就職志望者かつ就職活動経験者」に絞って算出

卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある学生は65.0%、ない学生は22.9%

- 就職活動経験者で、民間企業への就職確定者のうち65.0%が、「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある」と回答した。
- また、「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がない」と回答した割合は22.9%だった。

卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか

大学生_就職活動経験者かつ民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

(%)		
卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある※1	どちらでもない	卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がない※2
65.0	12.2	22.9

※1「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「非常にそう思う」「まあそう思う」と回答した割合

※2「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合

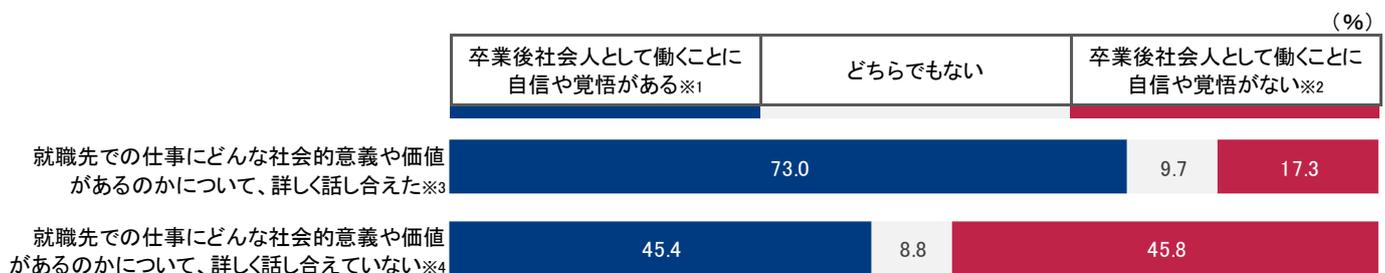
就職先企業と仕事の社会的意義や価値に関する詳しい対話ができなかった学生の73.0%は、社会人として働くことへの自信や覚悟があると回答

- 「就職先での仕事にどんな社会的意義や価値があるのかについて、詳しく話し合えた」学生では、73.0%が「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある」と回答。
- 一方で、「詳しく話し合えていない」学生では、「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある」と回答した割合は45.4%となった。
- 就職先企業と仕事の社会的意義や価値に関する詳しい対話ができなかった学生の方が、できなかった学生よりも、社会人として働くことへの自信や覚悟があると回答した割合が高かった。

卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか（再掲）

（就職先での仕事にどんな社会的意義や価値があるのかについて、詳しく話し合えたかどうか別）

大学生_就職活動経験者かつ民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



※1 「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「非常にそう思う」「まあそう思う」と回答した割合

※2 「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合

※3 「就職先での仕事にどんな社会的意義や価値があるのかについて、詳しく話し合えたかどうか」という設問で「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した学生

※4 「就職先での仕事にどんな社会的意義や価値があるのかについて、詳しく話し合えたかどうか」という設問で「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した学生

就職先企業と入社後に身につけるべきスキルや能力に関する詳しい対話ができただ学生の71.7%は、社会人として働くことへの自信や覚悟があると回答

- 「入社後に身につけるべきスキルや能力について、詳しく話し合えた」学生では、71.7%が「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある」と回答。
- 一方で、「詳しく話し合えていない」学生では、「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある」と回答した割合は37.2%となった。
- 就職先企業と入社後に身につけるべきスキルや能力に関する詳しい対話ができただ学生の方が、できなかった学生よりも、社会人として働くことへの自信や覚悟があると回答した割合が高かった。

卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか

（入社後に身につけるべきスキルや能力について、詳しく話し合えたかどうか別）

大学生_就職活動経験者かつ民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

	(%)		
	卒業後社会人として働くことに 自信や覚悟がある※1	どちらでもない	卒業後社会人として働くことに 自信や覚悟がない※2
入社後に身につけるべきスキルや能力 について、詳しく話し合えた※3	71.7	11.1	17.2
入社後に身につけるべきスキルや能力 について、詳しく話し合えていない※4	37.2	10.6	52.2

※1「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「非常にそう思う」「まあそう思う」と回答した割合

※2「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合

※3「入社後に身につけるべきスキルや能力について、詳しく話し合えたかどうか」という設問で「あてはまる」「どちらか」というとあてはまる」と回答した学生

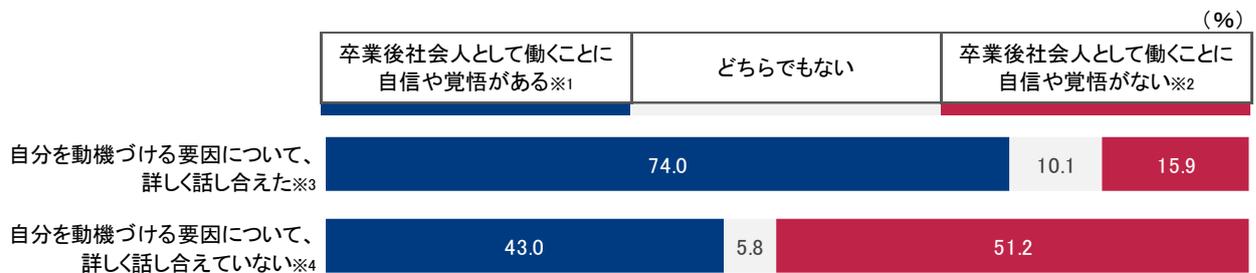
※4「入社後に身につけるべきスキルや能力について、詳しく話し合えたかどうか」という設問で「あてはまらない」「どちらか」というとあてはまらない」と回答した学生

就職先企業と仕事に対するモチベーションに関する詳しい対話ができなかった学生の74.0%は、社会人として働くことへの自信や覚悟があると回答

- 「自分を動機づける要因について、詳しく話し合えた」学生では、74.0%が「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある」と回答。
- 一方で、「詳しく話し合えていない」学生では、「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟がある」と回答した割合は43.0%となった。
- 就職先企業と仕事に対するモチベーションに関する詳しい対話ができなかった学生の方が、できなかった学生よりも、社会人として働くことへの自信や覚悟があると回答した割合が高かった。

卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか （自分を動機づける要因について、詳しく話し合えたかどうか別）

大学生_就職活動経験者かつ民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



※1「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「非常にそう思う」「まあそう思う」と回答した割合

※2「卒業後社会人として働くことに自信や覚悟があるかどうか」という設問で「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合

※3「自分を動機づける要因について、詳しく話し合えたかどうか」という設問で「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した学生

※4「自分を動機づける要因について、詳しく話し合えたかどうか」という設問で「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した学生

調査概要

- 調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する
調査方法 | インターネット調査
集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2025年卒：2024年6月12日時点

- 調査対象 | 2025年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2025』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生3,929人（内訳：大学生3,070人/大学院生859人）
調査期間 | 2024年6月12日～6月18日
集計対象 | 大学生 922人/大学院生 376人
※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2025/>

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2024年卒」を示す

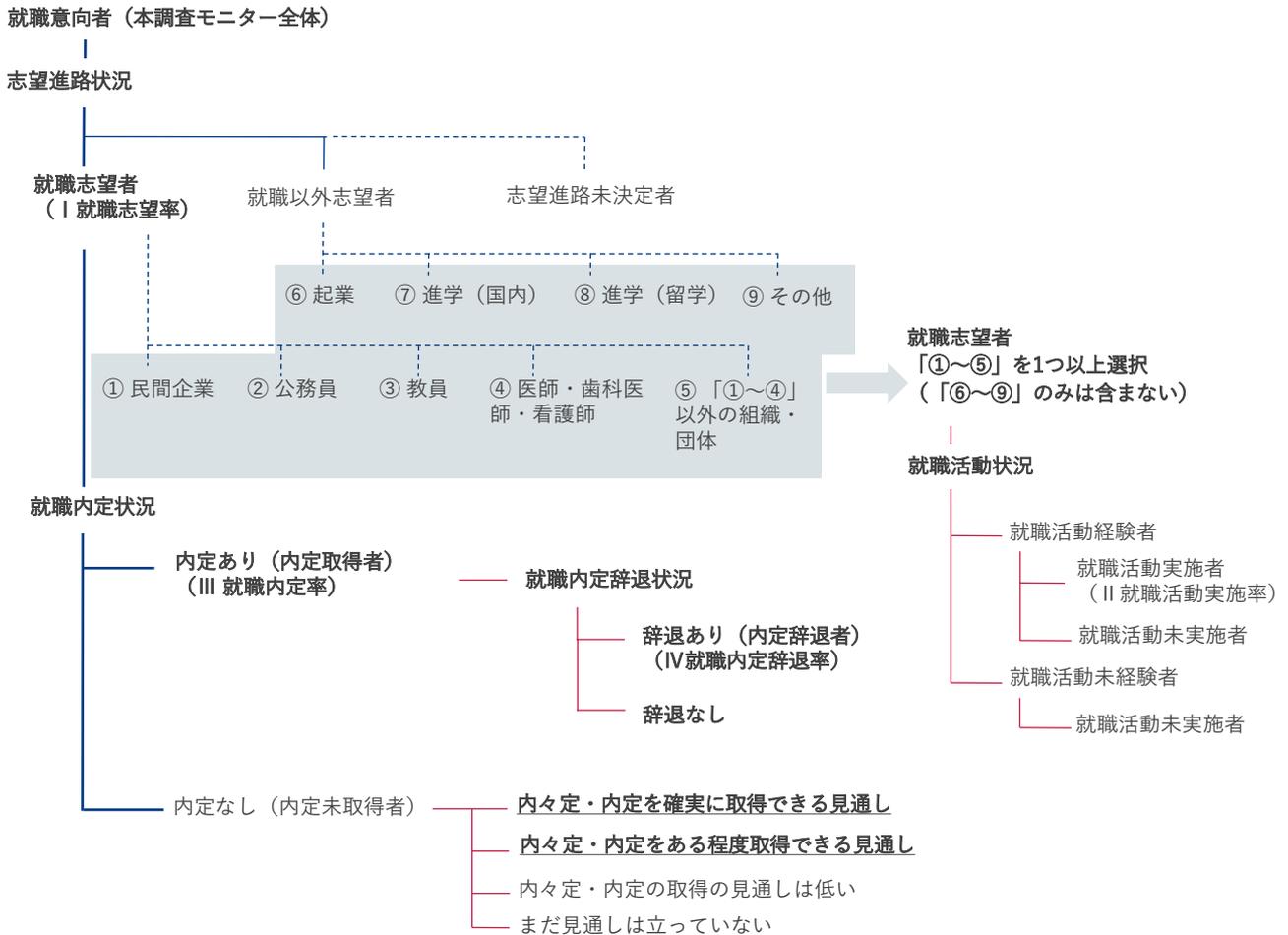
リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

● 就職意向者	=	当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
● 就職志望者	=	当月、就職を志望している者
● 就職活動実施者	=	当月、就職活動を実施している者 (※)
● 就職活動経験者	=	当月までに就職活動の経験がある者
● 就職内定取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
● 就職内定未取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
● 進路確定者	=	当月、進路が確定している者
		進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
● 就職内定辞退者	=	当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

○ 関東	=	東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
○ 中部	=	静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
○ 近畿	=	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
○ その他地域	=	「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者